

せとうちブループロジェクト 実行委員会



▲代表：渡辺裕子さん

2020年より本格的に活動を始めた、せとうちブループロジェクト実行委員会。今回、代表を務める渡辺裕子さんに取材をさせていただきました。

2人の娘を持つ母親でありながら、過去には、マルシェの開催や「山口県で活動するジュニアアスリートをサポートする会」を立ち上げるなど、長きにわたって活躍するバイタリティ溢れる女性でした。

活動を始めたきっかけを教えてください



▲海に浮かぶヨット。2018年の海上指導者推進育成プログラムの様子。

15～16年前、ママ友と自宅の庭でハンドメイドマルシェを開催したことが、市民活動を始めたそもそものきっかけです。当初は自宅の庭で行えるぐらいの規模でしたが、徐々に口コミで広がり、数年後には30店舗近くが集まるマルシェに成長しました。この頃、一緒に活動をしていた方たちも「環境」に対する感度が高く、ペットボトルのキャップをワクチンに変えるような取り組みも行っていました。

そして2009年、娘がセーリング（ヨットやウィンドサーフィンなど風を使って走る競技）を始め、とっても楽しそうに海に出て行く姿を見て、“周南市の子どもたちもこんな楽しい体験が出来たらいいなあ”と考えるように。娘が成長し自分の時間に余裕ができた頃、ずっと自分の中にあった「環境」や「スポーツ」をテーマに活動したいと、2018年の周南市共創プロジェクトに応募し採択されたことが、せとうちブループロジェクト実行委員会を立ち上げたきっかけです。

どんな活動をされていますか？

子どもたちに、海の体験が出来るようなプログラムを企画しています。昨年はサップ体験教室などを企画していましたが、コロナウイルスや天候の影響もあり中止に。この出来事をきっかけに、今までの“海”という限られた場所での活動から、もっと多くの方が気軽に参加できるように“屋内”も活動の場として考えるようになりました。現在は、徳山駅を舞台にeセーリングやVR体験もできるようなイベントを企画中です。



▲2019年のサップ体験教室の様子

どうして“海”？

海に対してどうしても強く伝えたいと思ったきっかけは、2011年の震災です。娘がずっと海でスポーツをしていたこともあり、自分にとってとてもすごく大きな出来事でした。

震災の1週間後、セーリングの練習のため娘を海へ連れて行ったら、当時小6だった娘が「ママ、私が海に出ている時津波が来たら、死ぬ？」って聞いてきたんです。私、答えられなくて、「分からん」としか言えなかったです。「自分が怖いと思うなら帰ろう。海に出なくていいよ」と伝えると、娘は長い時間考えて「行く」って言ったんです。今でもこの時のことは鮮明に覚えていて、娘にとってずっと親しんできた海は、怖いものじゃなくて楽しいものだったんだってこの時感じました。

次の世代の子どもたちにも、海の楽しさをしっかり伝えたいって思います。



イベント情報

描いた魚が泳ぎます!?

海の体験を徳山駅前

日時：7月3・4日（土・日）

場所：周南市立徳山駅前図書館など

科学実験教室やバーチャル水族館など
小さなお子様連れでも楽しめるイベントを開催予定!